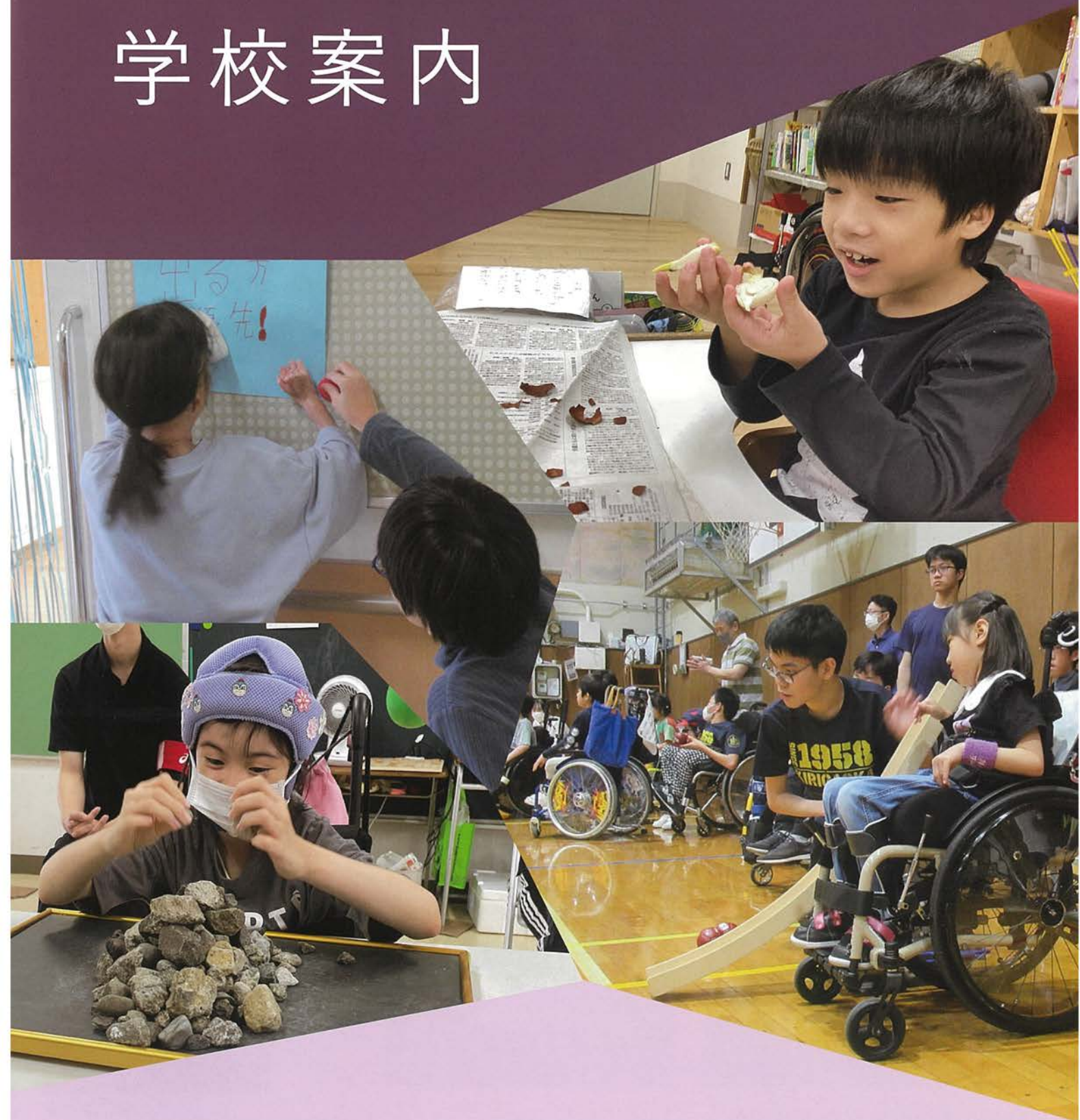


令和 8 年度 学校案内



筑波大学附属
桐が丘特別支援学校

Special Needs Education School for the Physically Challenged, University of Tsukuba

子供の気付きを引き出し可能性を広げる

肢体不自由教育の 桐が丘

桐が丘特別支援学校（以下、桐が丘）に通う児童生徒は、みんな肢体に不自由があります。しかし、誰一人同じではありません。みんな個性があり、一人一人の障害の状態や程度、好きなことや苦手なこと、得意なことや不得意なことなどがそれぞれ違います。桐が丘では、児童生徒一人一人が自分に合った学び方を見つけ、友だちや先生との対話を通して、一人一人の社会を広げ、そして、その中で生き抜く力が身に付く教育に取り組んでいます。

なかでも、生涯にわたって「生き方を探求する」ことができる姿勢や能力を、児童生徒に育むことを学校教育目標に掲げています。それは、学校を卒業した後の長い人生を歩んでいくために必要だと考えるからです。

学びの主人公は子供たち自身です。そして、障害の状態や程度に関わらず、どの子も無限の可能性を秘めています。学校は、子供たちが主体的に学ぶ場として最適な環境であることが何より大切であり、子供たちの気付きを引き出しながら成長を支える場でありたいと考えています。

肢体不自由のある児童生徒の障害特性を踏まえた指導の実績は、68年を数え、我が国における肢体不自由教育の発展に、少なからず貢献してまいりました。今後は、様々な場で学ぶ肢体不自由のある児童生徒の支援にも一層注力したいと考えています。これまで、そしてこれからも肢体不自由教育を追究し続け、未来社会を見据えた取組にも挑戦してまいります。

肢体不自由のある児童生徒の成長を確かに支える学校、多くの方に学び舎として選んでいただける魅力ある学校を目指してまいります。

校長 齋藤 豊



教育目標

教育基本法及び学校教育法、学習指導要領の示すところにより、肢体不自由及びその他の障害を併せ有する児童生徒に対して、個々の個性と障害の実態に応じた教育を行い、豊かな人間性をもち、主体的に自立と社会参加を目指し、生涯にわたって自己の生き方を探求していく人間を育成する。

学級編制（令和8年度より、各学部1年から重複障害学級、重度・重複障害学級を設置）

本校

小学部1年 普通学級1（4）、重複障害学級1（1～2）、重度・重複障害学級1（1）
小学部2～6年 普通学級・特別学級5（各6）
中学部1年 普通学級1（5）、重複障害学級1（3）、重度・重複障害学級1（1）
中学部2・3年 普通学級2（各6）、特別学級2（各3）
高等部1年 普通学級1（6）、重複障害学級1（3）、重度・重複障害学級1（1）
高等部2・3年 普通学級2（各8）、特別学級2（各3）

施設併設学級

小学部 普通学級1、特別学級2（計20）
中学部 普通学級1、特別学級2（計5）

※数字は学級数、（）は定員数



校舎と校庭

沿革

- 昭和27年9月1日 整肢療護園（日本肢体不自由児協会経営、現心身障害児総合医療療育センター内）の要請を受け、東京教育大学附属小学校の講師2名により、同園児の教育を開始
- 昭和33年4月1日 東京教育大学教育学部附属養護学校として開校
- 昭和35年4月26日 東京教育大学教育学部附属桐が丘養護学校と改称
- 昭和53年4月1日 筑波大学附属桐が丘養護学校となる
- 平成16年4月1日 筑波大学が国立大学法人化される
- 平成19年4月1日 国立大学法人筑波大学附属桐が丘特別支援学校と改称



屋内プール



小学部

友達や周囲の人と試行錯誤しながら学ぶ



理科



体育

児童一人一人の能力や特性、発達や障害の状態に応じた教育を行っています。特に各教科等の授業では、学習課題に対し、これまで学んだことを活用できないか考えたり、考えたことを実際に動いて確かめたり、友達や周囲の人と意見交換したりして、試行錯誤をしながら解決する力を育むことを大切にしています。これらを繰り返す中では、ゴールにすぐにはたどりつかないこともあります。粘り強く試行錯誤する力を小学部の時期に身に付けることによって、生涯、自分自身で学んでいく力の育成を目指しています。



校内キャンプ（1・2年生）



自立活動

桐が丘の学び 「合同道徳」

1年生から6年生まで、一堂に会して学習します。

学級での学び以上に多様な考えや価値観に触れることで、自分の考えを深め、どう生きていきたいかを考えます。

【4年生感想】いろいろな意見があっておもしろかった。
自分と思っていることがにている人がいるんだな。



他学部とのダンス交流会



クラブ活動



将来像を思い描き、身近な社会に積極的に参加していこうとする意欲を育む

中学部では、「豊かな人間性と生活の基礎となる力を育み、自らの将来像を思い描き、身近な社会に積極的に参加していこうとする生徒を育てる」ことを教育目標としています。

個に応じた教育を基本とし、学習を行っています。また、自分の将来像を思い描けるよう、様々な学習の機会を通して、身近なところから少しずつ社会へのアンテナを張れるようにしています。



中学部



タブレット端末の活用



道徳の授業



夏休み体験発表



他附属との交流学習



桐が丘の学び 校外学習「池袋へ行こう」

これまで培った力を生かして、移動手段や活動計画を生徒たちが立案します。学校から離れた場所まで自分たちの力で行き、公共の場でのマナーなどを学んだり、総合的な学習の時間などで設定した課題を解決するための探究活動を行ったりします。また、自己理解や他者理解を深め、身近な社会とのつながりを実感し、自己の生き方を考える力を高めていきます。

高等部

主体的に考え、社会の中で生涯にわたって 自己の生き方を探求していく力を育む

高等部では、「将来の生活に向けて、豊かな人間性と生活を営む力を育み、主体的に考え、社会の中で生涯にわたって自己の生き方を探求していく生徒を育てる」ことを教育目標としています。

各教科、特別活動、総合的な探究の時間や、学校設定教科（キャリア・プランニング）、職場見学・職場体験などを通じて、社会とのつながりの中で、自己理解を深め、より具体的に将来に向けて自分の生き方を考えていきます。



積極的に授業にタブレット端末を活用しています



進路希望や興味関心に基づいて、
選択科目を選んでいきます



他附属との交流学習



校内作業実習



桐が丘の学び 総合的な探究の時間 「これから生きる社会と自己の生き方」「三年生に学ぶ」等

中学部で培った力をより多様で広範囲な場面で発揮し、高め、卒業後の社会参加、自己実現を目指していきます。様々な人との関わり合いや体験活動を通して、社会について学びながら、自分自身の歩み方を模索し、自分の生き方を自己選択・自己決定していきます。

進路指導

自分の生き方を自己選択・自己決定できる児童生徒を育成するために、様々な学習において社会と自己とのつながりが意識できるようにしています。現在、多様な卒業生が多分野にわたって活躍しています。



自分に合った方法で
学習に取り組む様子



最新の福祉機器を試している様子



外部講師を活用した授業
職場のマナーについて考える
（高等部）



他者と協働し課題解決する授業
企画のアイデアを出し合う
（高等部）



平成23年度卒業生
古山彩花さん

自分の実現したい生活をしていくためには、24時間ヘルパーさんを入れた生活をしていくことが必要と気が付き、準備を進めました。不定期ですが友人を自宅に呼んでご飯を食べたりできていて、自分のやりたかったことを少しずつ実現できています。色々あるけど毎日幸せです。

国際教育

国際的視野で物事を捉えようとする姿勢と、積極的に自己発信しようとする意欲のある児童生徒の育成を目標に掲げ、国際教育の実践を行っています。



イングリッシュルーム（小学部、中・高等部）



JICA 研修員による授業見学



筑波大学留学生との
国際交流（高等部）



和美実験学校（台湾）との交流

英語でコミュニケーションを取ることが多かったり、社会科で学んだことが実感としても理解できたりしました。今まで学んできたことが、海外に身を置くことでつながりました。

「子供が学ぶ」を追究する各教科等の授業づくり

心身障害児総合医療療育センターに併設された施設併設学級には、様々な発達段階の児童生徒が在籍しています。各教科等の指導を通して、理解していることやできることを使い、社会や世界と関わり、よりよい人生を送る力を育むことを目指しています。

指導のねらいを明確にし、子供の「～したい」を大事にしながら、身に付けた力を生かしてさらに「学びたい」気持ちが育まれるような授業研究に取り組んでいます。

感じる・応じる・関わる
表出の3ステップで表現する力を育てる

音楽科



色の世界にどっぷりと浸かる体験を通して
表したい欲求を育てる

図画工作科・美術科



先導的教育

社会の変化や関係者のニーズを踏まえて研究テーマを設定しています。研究の成果は、当校主催の肢体不自由教育実践研究協議会等を通じて全国へ発信しています。



肢体不自由教育実践研究協議会
公開授業



肢体不自由教育実践研究協議会
対面開催の様子



教師教育

筑波大学公開講座やオンラインを活用した研修会等を通して、全国の先生方が実践的指導力向上を図る場を開発しています。



筑波大学公開講座
肢体不自由児のための自立活動指導法
明日の指導の手がかりとしての
動作法と静的弛緩誘導法



筑波大学公開講座
初めての肢体不自由教育
静的弛緩誘導法から学んだことを基にして



筑波大学公開講座
障害の重い子の成長・発達の援助
主体的な学びを育む静的弛緩誘導法



筑波大学公開講座
自立活動に活かす動作法実習



自立活動実践力錬成塾
オンラインを活用した自立活動演習



肢体不自由算数・数学科研究会
全国ネットワークでつなぐ
算数・数学科の理論と実践

主な学校行事

令和8年度 学校公開・入学選考日程

【本校】

○小学部

桐が丘祭（学習発表会）
桐が丘スポーツ大会
遠足（2学年ごと）
校外学習（学年ごと）
校内キャンプ（1・2年）
宿泊学習（3・4年）
移動教室 / 修学旅行（5・6年）

○中学部

桐が丘祭
桐が丘スポーツ大会
校外学習（1～3年）
宿泊学習（1～3年）

○高等部

桐が丘祭
桐が丘スポーツ大会
宿泊学習（1年）
修学旅行（2年）

【施設併設学級】

学習発表会
スポーツデー
校外学習（小学部）
社会見学（中学部）
修学旅行（小6年・中3年）

●学校見学日（※は療育・福祉等関係者向け）

5月19日（火）
6月2日（火）※
6月9日（火）
6月30日（火）※
7月7日（火）
9月8日（火）

●体験授業・授業見学

小学部 10月20日（火） 新小1対象
中学部 10月9日（金） 新中1対象
高等部 10月2日（金） 新高1対象

●令和9年度入学選考

入試説明会 8月21日（金）
入試問題閲覧 10月13日（火）～11月13日（金）
出願書類配布 10月19日（月）～10月30日（金）
出願書類受付 11月11日（水）～11月13日（金）
入学選考日 12月10日（木）・11日（金）
合格発表 12月24日（木）
入学者説明会 2月26日（金）

詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.kiri-s.tsukuba.ac.jp/>



筑波大学附属桐が丘特別支援学校

【本校】

〒173-0037 東京都板橋区小茂根2丁目1番12号
電話 (03) 3958-0181・0184



【施設併設学級】

〒173-0037 東京都板橋区小茂根1丁目1番10号
電話 (03) 3956-0181・6149



当校までの順路



◎東京メトロ有楽町線・副都心線「小竹向原駅」（3番出口）下車、本校徒歩13分、施設併設学級徒歩6分

◎JR 赤羽駅東口より国際興業バス・関東バス高円寺北口行「上の根橋」（本校）または「小茂根」（施設併設学級）下車、所要時間30分（逆方向は所要時間約40分）